

令和4年度 保安管理計画書

災害発生状況		R1	R2	R3	3年度 の振り返り	令和3年度は災害ゼロである。 しかし、最近ではヒヤリハットが発生しており、自社巡回点検で砕鉱場手すりの不具合事項があった。また、「墜落転落」「飛来落下」関連の重大ヒヤリハットがあった。 令和4年度は保安方針にそって抽出された課題に対応すべく計画を立案する必要がある。	保安方針	1. 保安上の危険有害要因を把握し、危害及び鉱害の防止を図る。（3つの事故の型に着目） 2. 本方針の実行にあたり、必要な経営資源を投入するとともに、効果的な改善を継続的に実施する。 3. 経営方針の中に保安を取り入れ、鉱山保安マネジメントシステムを適切に推進し、すべての鉱山労働者に対して保安確保が図られるよう行動する。 4. 保安確保は、良好なコミュニケーションのもとに実現されるとの認識に立ち、鉱山労働者の意見を尊重し、協力関係の下で、保安活動を実施する。 5. 法又はこれに基づく命令、保安規程等を遵守するにあたり、鉱山労働者には必要な教育訓練を実施し、保安確保につなげる。
	死亡	0	0	0				
	休業4週間以上	2	0	0				
	休業4週間未満	0	1	0				
	合計	2	1	0				
自社巡回点検時不具合事項		保安設備(手すり)の未設置			保安目標	「不休・休業災害ゼロを達成」 重点項目： 1. RA /2. 保安会議・保安集会 /3. 設備対策 /4. 保安活動 /5. 保安教育 /6. その他		
R3 (R2) ヒヤリハット		2						

P				D													C	A	
重点項目	No	実施内容（期待する効果）	目標（値）	年間スケジュール 上段：計画 下段：実施													主たる担当者	評価 （実施状況、効果など）	改善
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
① リスクアセスメント （RA）	1	9月まで低減措置を実施した分の残留リスクを記録し評価（※今年度はリスクレベル「すごく心配」「心配」について低減措置を実施し、全て「気になる」にする）	全て			○			○								管理者	「心配」の残留リスクが○件ある。	残留リスク○件は次年度の設備対策で低減。その他は具体的かつ継続的な措置を実施（毎月の手順読み合わせなど）
	2	新たなリスクの洗い出し、評価、低減措置の検討（3つの事故の型洗い出しを徹底。さらに転倒リスクも積極的に洗い出す。本質的対策から優先度を考え検討する）	3ヶ月間集中								○						管理者 労働者	記録した内容によると、新たに○件を洗い出したが中長期的な観点のリスクが未抽出であった。低減措置から1か月に効果を確認した。	設備者巧や開発区域拡大に関するRAを担当が責任を持ち実施。経営トップの判断を仰ぐ必要がある。低減措置自体を見直し作業手順書に反映する。
	3	：																	
	4																		
	5																		
	6																		
② 保安会議・保安集会	7	保安会議（以下会議）は毎月第1月曜日に開催し、検討結果は全員へ周知（活発な議論により、多くの検討がなされる）	1回/月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		管理者 労働者	毎月実施した報告事項が多く、若干マンネリ気味	現場の課題をより明確にする。
	8	集会で方針と今年度の目標・計画を表明（全国鉱山保安週間中の集会に再度周知 保安規程に追加されたルールを周知）	4月・7月	○			○										社長	保安規定に追加されたルールについてすべて周知した。方針の理解向上が課題	来年度も続ける 方針周知に力を入れる。保安方針、保安目標を示したポケットカードを配布する。
	9	10月の会議時点での保安計画の進捗を評価（遅れている計画について対応を検討し今後の改善を図る）	10月							○							管理者 労働者	評価・改善について検討はできた。繁忙・費用の関係などから進捗遅れあり保安委員会で議論した。	遅延しないよう責任者が中心となり設備改善の状況を綿密に検討する。労働者に状況を周知する。
	10	会議で次年度の保安目標・計画案などを検討し社長に相談（1月までに検討 本年度よりも充実させる）	1月まで										○				管理者	予定通り保安目標・計画案を提出し、転倒対策について充実を図る	転倒対策に設備対策費充当
	11	社長から次年度の予算・体制・保安目標・計画について回答を得る（予算・体制について十分検討する）	2月回答											○			社長	現場および鉱山保安MS推進の体制は中長期的な課題。それ以外ほぼ了承。	体制は継続検討し○年以内に対応。確実に保安計画を実施していく。
	12	会議で次年度の保安目標・計画内容を検討し最終決定（連携し、十分な検討を行うとともに遅延がないようにする）	3月決定													○	社長 管理者	計画立案の遅延はなかった。社長との連携により十分な検討が図られた	来年度も続ける
	13	：																	
③ 設備対策	14	50tダンプ手すりを補修（RA No.○）（作業が遅れそうな場合には早急に報告し、解決策を講じる）	4月中	○													労働者	全員で補修	完了
	15	歩廊（○箇所）の墜落防止手すりをすべて補修（RA No.△）（同上）	○箇所		○			○									労働者	○箇所完了（○%）現場レイアウトや経費、作業上の問題などから対応遅れ	スクリーン上部歩廊の手すり補修は次年度検討 早期相談を行うよう周知
	16	路面整備（同上）	2ヶ月 10月まで							○								実施	次年度も実施
	17	：																	
重点項目	No	実施内容（期待する効果）	目標（値）	年間スケジュール 上段：計画 下段：実施													主たる担当者	評価 （実施状況、効果など）	改善
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3				
④ 保安活動	18	保安規程の見直し（発破作業に関して実態との乖離が無いように充実を図る）	3ヶ月間集中		○												管理者	実態との乖離がまだ感じられる	鉱山労働者の代表からの意見を踏まえ、次年度の上半期中に再度見直しを行う
	19	KY（危険予知）活動を始業ミーティング時に実施する（活性化を図り、毎回違った内容が出されるようにする）	1回/毎朝	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		労働者	毎日始業前に行うようになったがマンネリ化している	次年度は司会を輪番制として活性化させる
	20	ヒヤリハットの事例収集キャンペーン（数多く提出される雰囲気作りを行う。）	1回/3ヶ月 30件収集	○			○			○				○			管理者	重大ヒヤリ（挟まれ）2件発生。事例は18件となり目標未達。ヒヤリの潜在化が懸念される。対策実施済	重大ヒヤリはRAに。想定ヒヤリを含め、多く提出した労働者の表彰を検討。
	21	発破関連の作業手順の見直しと周知を行う（退避場所およびクローラードリル孔曲がり防止の観点他）	5作業見直し							○							労働者	穿孔作業について分かりやすく手順を整備した。実態との乖離がまだ見られる	発破者と穿孔者の連携手順を次年度上半期中に整備。
	22	保安パトロールの実施（鉱山全域において法令順守項目に対するチェックを十分に行う）	1回/月	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		管理者	例年通り毎月1日実施 形骸化懸念 法令順守チェックは採掘場でとくに手薄	隣接鉱山との相互チェックを検討。採掘場についての技術基準省令や措置事例の順守チェックを強化する。
	23	回転体に手を出さないことの周知徹底	挟まれ巻き込まれゼロ	○			○			○				○			管理者	重大ヒヤリ（挟まれ）が2件発生し、未達成。	周知徹底は継続するが、その方法についてより効果的なものを要検討。
⑤ 保安教育	24	技術保安管理士を増やす（既取得者が受験者を十分に指導して全員合格を目指す）	2名							○							労働者	10月に1名合格 不合格者には受験前の指導時間が少なかった。	次年度は十分な指導時間を確保し、2名合格を目指す
	25	必要な特別教育の受講（未修了者を解消）	対象全て			○			○								労働者	○人が対象であったが、△人受講できなかった。	仕事との調整を図り次年度は○人を受講させる。
	26	他社の危険体感道場の中堅を派遣し、訓練を1題材企画し実施してもらう（危険軽視による墜落転落の防止対策を充実）	2名 1題材実施								○						労働者	「高所からのサンドバック落下観察」を実施し、受講者の感想から、感性に直接訴える事ができたと推察。	次年度は挟まれ災害に関連した体感教育を検討。研修資料も検討。
	27	リスクアセスメントの実施方法についての教育	2名								○								○人が対象であったが、△人受講できなかった。
⑥ その他	28	定期健康診断の実施	1回実施	○													労働者	全員実施	来年度も続ける
	29	55歳以上の鉱山労働者に作業負荷アンケート（高齢化への対応をよく検討する）	55歳以上全員				○										管理者	労働者要望により実施し、回答を多く得たが具体的な対応は今後の課題。（高齢による作業不安を感じる者が多い。）	RAで高齢による転倒リスクの視点などを追加して洗い出し、具体策を検討
	30	事業環境の変化（増産計画の実施）に伴うリスク対応	増産に伴うリスク増加ゼロ	○	○					○							社長 管理者	人員の増加及び徹底した保安教育等を実施したことにより達成。	来年度も事業環境の変化（労働者の高齢化、規制の変化等）に着目し、対応する。

※「年間スケジュール」の上段には計画する時期に○印、下段には実際に行った時期に●を記入する

社長からの保安計画などへの回答概要		4年度の全体振り返り	